

そんけい すべき ムスリム の みなさま！

アッラー の しと (かれ の うえ に しゅくふくと へいあん あれ) が、ムアーズ・ブン・ジャバル (かれ に しゅ の ごまんえつ あれ) と たび を して いた とき の こと です。かれ が「ムアーズよ！」と はなしかけると、ムアーズ は「はい、アッラー の しと よ！ なんなりと ごめいれい ください」と こたえました。この やりとり を さんど、くりかえした のち に、アッラー の しと (かれ の うえ に しゅくふくと へいあん あれ) は つぎ の よう に かたり ました。「だれ で あれ、『アッラー の ほかに かみ は なく、ムハンマド は その しと である』と、こころ の そこ から しょうげん した もの の こと を、アッラー は じごく の ほのお から まもり たもう だろう」。¹

しんあい なる しんこうしゃ の みなさま！

カリマ・シャハーダ、すなわち しんこうこくはく の ことば とは、しんこう の せいずい であり、イスラーム の だいいち の はしら です。それは アッラー (スバーナ ワ タラー) と わたしたち との せいやく です。しゅ の ごしょうにん を もとめ、クルアーン の みち から はずれない よう に する、と やくそく する こと です。

カリマ・シャハーダ は また、よげんしゃ (かれ の うえ に しゅくふくと へいあん あれ) と わたしたち との やくそく でも あります。この やくそく を とおして、わたしたち は かれの スナが しんこう の じょうけん である こと を せんげん し、しと (かれ の うえ に しゅくふくと へいあん あれ) に した がう こと に より、アッラー (スバーナ ワ タラー) の およろこび が えられる かもしれない こと を、あらためて かくにん する のです。

しんあい なる ムスリム の みなさま！

カリマ・シャハーダ を くち に する こと は けだかい こうい で あり、かち ある ズィクル で あり、すばらしい ドウアー で あります。カリマ・シャハーダ に よって、わたしたち は よげんしゃ ムハンマド (かれ の うえ に しゅくふくと へいあん あれ) の ウンマ として しよせかい の しゅ で ある アッラー に した がい、すくい を える のです。シャイターン や ナフス の どれい と なる こと から みずから を かいほう し、そうする こと に より しん の じゅう を きょうじゅ する のです。こうして わたしたち は あんしん して あらゆる しゅるい の あく や さいなん、ふこう から かたく まもられ、こころ やすらかに とし を かさねて ゆける のです。この タウヒード の せんげん に よって、ふつつ の ひ、わたしたち は はか における おおいなる いかり と ばつ を まぬかれる のです。これ を となえる こと で てんごく の もん は ひらき、これ を となえる こと で アッラー の うつくし さ が たたえられる のです。

ぜんこの アッラー (スバーナ ワ タラー) が おしえた もう つぎ の ドウアー を もって、ほんじつ の ホトバ を おわります。「しゅ よ。ほんとう に わたしたち は、しんこう へと よびまねくもの が『あなたがた の しゅ を しんじよ』と よぶ のを きいて、しんじる よう に なり ました。しゅ よ、それゆえ わたしたち の つみ を ゆるして ください。わたしたち の わるい おこない を とがめ ないで ください。そして わたしたち を、とくあるもの と ともに めしよせて ください」。²

¹ Bukhari, 'Ilm, 49.

² Al-i 'Imran, 3/193.